

主題名 本当の友達(教材名「ロレンゾの友達」)

第6学年 A-(15) 友情、信頼

◆本実践の概要

① 【個別最適な学びと協働的な学びの視点から】

ロレンゾの友達3人それぞれの立場を考えられるよう、アンドレグループ・サバイユグループ・ニコライグループに分け、自分の視点や立場を明確にさせた上で、話し合いを進める。同じ立場の友達と話し合う、違う立場の友達と話し合う、クラス全体で話し合うという様々な学習形態の工夫をすることで、多面的多角的な考えにより多く触れることができるようにする。

② 【自己調整力の視点から】

導入で、事前に集計した「友達」に関するアンケート結果を提示することで授業の見通しをもたせる。また、終末で「友達とは」と児童に問い、ねらいにせまることができるようにする。児童一人一人が45分間で、様々な考えに触れ、客観的に自分の学びを自分なりに理解することができるようにする。

③ 【ICT活用の視点から】

事前に友達に関するアンケートを Forms で作成し、児童に回答してもらい、その結果を提示することで、導入の時間短縮を図るとともに、児童が自分事としての意識をもった上で授業に参加できるようにする。学習教材ミライシードのムーブノートを活用し、アンドレ・サバイユ・ニコライ 3人の中から自分の考えを事前に打ち込ませる。視覚情報として残り、児童の考える拠り所となる。また、展開での話し合う時間を十分に確保し、多面的多角的な考えに多く触れることができるようにする。

1 ねらい

ロレンゾの3人の友達の対応を考えることを通して、友達に対してどのような思いが大切か考えを深め、友達と互いに信頼し良好な人間関係を築いていこうとする心情を育てる。

2 教材について

本教材は、ロレンゾの3人の友達が「どのように対応することが本当の友達なのか」を考えることを通して、ねらいに迫るものである。

罪を犯したかもしれないロレンゾに対して、三者三様の友情の在り方を示すがまとまらず、無実のロレンゾと再会し、友人としてどのようにするべきだったのか改めて考える内容の教材である。

周囲のうわさや偏見に左右されず、友達との信頼関係をもとに行動することの大切さに気付かせることができる教材である。

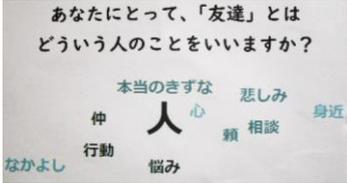
3 児童生徒の実態

本学級は、男子 12 名、女子 12 名、計 24 名である。学習に対して意欲的な児童が多く、道徳科の授業においても、自分なりに考え、発言しようとする姿が見られる。

6年生という発達段階においては、これまで以上に友達を意識し、仲の良い友達との信頼関係を深めていこうとする。また、趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向も生まれることから、友達関係で悩むことが今まで以上にみられる時期でもある。

本校は統合4年目を迎える学校である。統合を経験した児童の様子を見ると、友達との接し方や付き合い方にぎこちなさを感じたり、集団としての仲間意識が弱いように感じたりすることがある。今回の学習を通して、改めて目の前にいる友達について見つめ直し、どういう存在なのか、考えを深められるようにしたい。

4 本時の実際

過程	学習活動 ○主な発問	・児童生徒の反応	◇指導上の留意点
導入	<p>1 事前に教材を読んでおく。</p> <p>1人1台端末に、3人の友達がロレンゾに対して、どのような気持ちで行動しようとしたのか、考えを打ち込んでおく。</p> <p>2 アンケート結果を提示する。</p> <p>Forms で作成したアンケート「あなたにとって、友達とはどういう人のことをいいますか。」集計結果を提示する。</p> <p>○みなさんのアンケート結果を見てください。</p>	<p>・児童生徒の反応</p>  <p>※事前アンケートを提示し、自分事としての意識をもたせる。</p> <p>・一緒に遊べる ・相談できる ・困っていたら助けてくれる</p>	<p>◇やや長い教材であり、登場人物も多いことから、事前に読み、状況を理解させた上で授業に入る。そうすることで話し合う時間の確保にもつながる。</p> <p>◇1人1台端末に自分の考えを事前に打ち込んでおく。話し合う場で役立てながら、友達の考えを確認する。</p> <p>◇電子黒板にFormsの結果を映し、全体で共有する。</p> <p>◇学習の見通しと道徳的価値への方向付けを図る。</p>
展開	<p>3 ロレンゾの3人の友達の対応について押さえる。</p> <p>4 それぞれの立場で話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>3人の友達は、ロレンゾに対して、どんな気持ちで行動しようとしたのだろうか？</p> </div> <p>話し合い①【グループ】 →同じ立場の友達と話し合う。</p> <p>話し合い②【グループ】 →違う立場の友達と話し合う。</p> <p>話し合い③【全体】 →クラス全体で話し合う。</p> <p>○3人の思いで共通することは何だろうか？誰のことを思って行動しているだろうか？</p>	<p>《 アンドレ 》 お金を持たせて黙って逃がす。</p> <p>《 サバイユ 》 自首をすすめる。本人が納得しない場合は逃がす。</p> <p>《 ニコライ 》 自首をすすめる。本人が納得したら一緒に付きそう。だめだったら警察に知らせる。</p> <p>《 アンドレ 》 ・捕まってはほしくない。</p> <p>《 サバイユ 》 ・罪は償うべきだが、事情があったなら捕まってはほしくない。</p> <p>《 ニコライ 》 ・きちんと罪は償わなければならない。</p> <p>・ロレンゾを思いやる気持ちがある共通している。</p>	<p>◇3人の登場人物の挿絵や名前、対応について板書することで、それぞれの立場や考えを想起しやすくする。</p> <p>◇行動の裏にある、気持ちの面を共有していく。</p> <p>◇1人1台端末の画面を見合いながら、互いの考えを確認し、話し合いに活かす。</p> <p>①②は端末ありで話し合う。③は1人1台端末なし、または教師側で電子黒板を見せながら話し合う。</p> <p>◇3人の対応は違っても、根本にはロレンゾを思いやる気持ちがあることを押さえる。</p>

<p>終末</p>	<p>5 「友達」について考える。</p> <p>◎友達とはどういう人のことをいいますか？</p> <p>6 学習感想を書く。</p> <p>○今日の授業を通して学んだことや友達の考えを聞いて感じたことなどを書く。</p> <p>7 教師の説話を聞く。</p>	<p>・相手の言葉をしっかりと受け止め、正しいと思うことを伝え、互いにわかり合える人。</p> <p>・どうすることが本当に相手のためになるかを考え合えるのが友達。</p> <p>★「友だち」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>わたしより</p> <p>わたしのことをよく知っている</p> <p>ときどきわたしのことをわたしより一生懸命になる</p> <p>その友だちのわたしは友だち</p> </div>	<p>◇逃がすことは友達と言える？友達なら牢屋に入れることができる？等、揺さぶる問い返しをし、友達という存在について再度考えさせる。</p> <p>◇ムーブノートを活用し、授業の振り返りボタンを選び、全体で確認し、学習感想と結び付けて発表させる。</p> <p>◇詩を紹介する。「友だち」関洋子</p>
-----------	--	---	---

5 評価の視点

- ・友達の過ちに対してどうするべきか、自分に置き換えて考えたり、自分の経験と比べてたりして考えていたか。
- ・「本当の友達」としての在り方について、様々な視点から考えを深めていたか。

6 実践を振り返って

①【個別最適な学びと協働的な学びの視点から】

事前にアンドレグループ・サバイユグループ・ニコライグループに分け、自分はどの立場で考えるのか明確にさせたことにより、授業の中心である話し合い活動にスムーズにつなげることができた。また、話し合いの場づくりも、同じ立場の友達、違う立場の友達、クラス全体という様々な場の工夫をしたことにより、話し合いを重ねていくうちに、自分の考えをより明確にすることができたとともに、多面的多角的な考えにより多く触れることができた。



同じ立場の友達と



違う立場の友達と



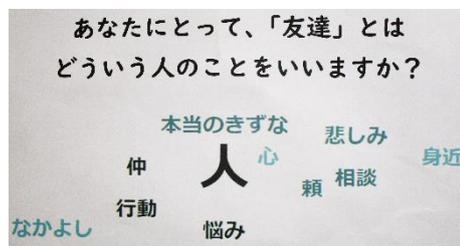
クラス全体で

②【自己調整力の視点から】

導入で、事前に集計した「友達」に関するアンケート結果を提示することで、教材との距離を近づけ、自分事としての意識をもち授業に臨む姿勢をつくることができた。また、終末で「友達とはどういう人のことを言いますか」と問うことで、授業はじめの自分の考えと授業終わりの自分の考えがどう変化して深まったのか、客観的に学びを理解することができた。

③【ICT活用の視点から】

事前に「友達」に関するアンケートを Forms で作成し、児童に回答してもらい、結果を導入部分で提示することで、その場で聞いて板書することにかかる時間を短縮させることができた。また、自分たちが回答した内容ということで関心を高め、自分事としての意識も高めることができた。



学習教材ミライシードのムーブノートを活用し、アンドレ・サバイユ・ニコライ3人の中から、自分の立場の考えを事前に打ち込ませることにより、視覚情報として残り、児童の考える拠り所となった。また友達の考えも全て1人1台端末で確認することができるため、多くの多面的多角的な考えに触れることが可能となった。十分に友達の考えを確認したことで、中心となった話し合い活動が活発なものとなり、徐々に深まりが増していく時間をつくることができた。

